

令和3年度第1回代表幹事会議事録

【日 時】令和3年(2021年)8月28日(土) 13:00 ~ 15:00

【場 所】Zoom 会議

【出席者】役員：佐藤会長、三澤幹事長兼副会長、久保田副会長、小松副会長、太田副会長、衣袋副会長
代表幹事：小林会計委員長、佐原サイト管理委員長、森本総会指導委員長、脇川財政委員長、
仁科渉外委員長、戸田広報委員長
濱田第54回実行委員長、深澤第55回実行委員長(予定) 松沢実行委員、袖山実行委員
有賀総会指導副委員長、二木6年委員会副委員長、河野6年委員会副委員長
佐藤事務局次長、松澤事務局次長、百瀬総務委員長 計22名参加

議事進行：運営細則第5条総務委員会第1項に基づき、百瀬総務委員長兼幹事長補佐が第一回代表幹事会議題にそって議事進行を行った。

1. 総会指導委員会(森本総会指導委員長)より

(1) 第54回総会・懇親会総括、会計仮報告

(森本総会指導委員長が添付資料①②③に基づき報告)

資料①について

- ・年間を通じて終始コロナ禍の影響を見極めながらの準備・開催となったが、幹事会をはじめとして同窓会のサポートとご理解のもとオフライン形式での同窓会総会・懇親会を無事に執り行えたことは今後の開催方式に新しい選択肢を加えることにもつながり、一定の意義があったと感じている。
- ・YouTube 視聴者数は8月26日現在 1,436。
- ・今後の課題
 - (ア) コロナ禍で直接集まるのが難しくなり、活動の全体像や今まで蓄積されてきた運営のノウハウ、個別の活動や準備作業(会報あがたの作成、総会・懇親会)の持つ意義や意味合いを理解するのが難しくなっている。特に実行委員の代は初めて同窓会活動に関わる人も多く期間が一年しかないため、どのように理解してもらい活動を引き継いでもらうかが今後の課題の一つ。
 - (イ) 備品類の取り扱いも実行委員持ち回りでなく、同窓会として管理方法の検討
 - (ウ) 寄付金や協賛金のオンライン決済化を進めること
 - (エ) 若い世代をどのように取込むか、同窓会活動の意義・在り方の再確認
 - (オ) 各委員会や同窓生の集まりを月一回くらいずつ開催する。
 - (カ) 広報・周知活動における各回期幹事の役割の再確認
 - (キ) 大口寄付者への顕彰

資料②について(会計仮報告)

- ・ 収入の部
賛助金 206,000 円は予定(30万円(2口×1,000人))を下まわったが、寄付金 180,000 円は予想を超えて協力を頂いた。計 386,000 円 105 人、平均 3,676 円。
本部助成金 500,000 円 など、収入合計 1,092,000 円

- ・ 支出の部
テレビ松本への委託費、会場費など、総額で 883,691 円
- ・ 繰越金
208,309 円 (予算 5,170 円)
- ・ 9 月の合同幹事会にて最終決算報告を予定している。

(2) 第 55 回実行委員への引継会について

資料③について (引継会)

- ・ 8 月 1 日に次回の第 55 回実行委員会との引継会を実施した。
- 第 55 回実行委員会のメンバーから出た感想は以下の通り
- ・ 実行委員として個々人の負担が相当大きい。簡素化を図れるものについては、ぜひそれを実現して頂きたい。
- ・ 実行委員会扱いの備品の保管も大変である。
- ・ 若い人の参加はハードルが高いと感じる。

資料④について (総会指導委員会・実行委員会の課題)

- ・ 40 回生以降は組織化 (同期つながり) がない。もしくは顕在化できていない。
- ・ 返信葉書の回収が難しい。葉書を廃止し、WEB 申込みに一本化できないか。
- ・ 第 52 回 (41 回生) アンケートにて、会報「あがた」の電子メールによる配信について賛成するが 64%。何らかの形で印刷物も欲しい 8%、反対である 28% (回答数 564)
- ・ 会費の支払いをできるだけ事前振込として欲しい。
- ・ 実行委員に、300 人集める会に意義を見出せなくなっている。
- ・ 備品の管理について実行委員の受け渡し継続するのは如何なものか。倉庫を借りても良い。
- ・ 僚友校との関係：案内、礼状は本部で扱って頂けないか。送るのは実行委員会でも可能。
- ・ 同窓会と学校との結びつき。若手は「親睦」にはあまり興味はないのではないか。第 53 回「ネットワーク再発見」、第 54 回「結」を継続して具現化すべき。
- ・ 女性役員を。
- ・ 2022 年 1 月には大方針を決定したい (第 53 回、第 54 回はそれぞれ 2020 年、2021 年 1 月下旬にオンライン断念)
- ・ 年内オンライン開催を念頭に詰めるのではなく、オンラインはあってもサブとしてオンラインを活用した、第 54 回の延長も意識した新しい開催のありかたを検討したい。

(三澤幹事長よりご挨拶)

- ・ 森本さん、濱田さん、大変ありがとうございました。
- ・ 6 月の時点は大変だったが、今を比べるとコロナの影響は少なかったように思う。
- ・ 今後、東京同窓会としては今まで毎年リレー方式で継続してきたものをどう繋げていくか、実行委員会が思う事をどう実現していくかが課題。開催そのものに反対する人達もいた。実行委員 2 人で仕切ったのは最低人数だった。やる熱意を持って頂いたお陰で開催が可能だった。
- ・ 森本総会指導委員長から若手の負担をいかに少なくするかという提案を受けた。備品の管理についても、個人宅に置いておくのが難しくなり、倉庫を借りるなどの対策も考えて行きたい。
- ・ 先ずは、6 月を無事に実施して頂いたこと、松本の須崎さんにもご協力頂いたことに感謝したい。

(濱田実行委員長)

- ・ 6 月に無事に開催出来てほっとしている。一人では出来なかったが幹事会や同窓会の皆様のご協

力のお陰で実施できた。改めて縣陵東京同窓会の結びつきの強さを感じた。

・ 今まで積み上げてきたノウハウを伝えることと、今後、改善していくべきことを整理してアドバイザー的に協力していきたいと考えている。

(次回、実行委員の挨拶)

深澤さん：学生時代は生徒会長とサッカー部に所属していたので、サッカー部の人達とは交流がある。同窓会関連で生徒会関係の人達がいるので彼らとも協力しながら進めて行きたい。コロナでリモートがベースになるかもしれないので、その際にどう取り組んでいくか検討していきたい。1年間を宜しく願い致します。

松沢さん：高校時代はバスケ部に所属していた。東京でこのような同窓会が代々盛大に続いていたことは最近まで知らなかった。実家に会報あがたが届いていたが良く見ていなかった。たまたま、お声掛け頂いたご縁で8月初めに日本橋の引継会に参加させて頂いてお話を伺った。前年度は大変な中で試行錯誤しながら、良いものを残しつつオンラインとオフラインでやってきたことが良く分かった。コロナはまだ続くと思うので、来年も同じような形で考えたい。実行委員も人が集まらない状況なので、やりやすい形でどう引継いで行くかを同期と考え先輩のご助言を頂きながら考えて行きたい。宜しく願い致します。

袖山さん：一旦松本に結婚を機に戻ったが、仕事のために東京に戻って1年余り経つ。39期の黒田さんにお誘い頂き東京同窓会に参加したことがある。丸山先輩やさまざまな先輩にもご紹介頂いた。そのネットワークをどう生かして行くかが大事だと思うので、皆さんのご指導を頂きながら頑張っていきたい。

(質疑応答ほか)

- ・ 同窓会の備品の保管方法については、総務委員会が各委員会でどんなものが、どれだけ、どこに保管されているかを調査する。そのうえでよりよい方法を検討することとしたい。なお、当面の備品の置き場所がきまらない場合は、高44回の松沢が一時的に預かってもらっても良いとのこと。佐藤事務局次長より、何でもかんでも(8/28に依頼を発信済み)
- ・ 寄付や協賛金の支払のオンライン化について、総会指導委員長の大学の同窓会では、会費をオンラインで振込めるように変更した。今後、時間を掛けて分科会のようなところで、支払いしやすい手段・方法を検討していきたい。
- ・ 実行委員会の負担軽減策や若手の勧誘についても継続的なテーマ。次回の合同幹事会で具体的な意見交換をし、議論していきたいので、各代表幹事の皆さんも準備をお願いします。
- ・ 本来であれば、代表幹事会ではそれぞれの課題について大きな方向性を決める場であるが、今回は、深堀せず、課題の提示に留める。(三澤幹事長)
- ・ 第55回の総会・懇親会については、今年と同様に、オンライン・オフラインの併用で取敢えず準備を進めていく事とする。

2. 縣陵東京同窓会のHPの活用について (佐原HPサイト管理委員長から説明)

※ 当日の補足資料⑤を参照

- ・ 今回の総会案内については、濱田実行委員長のレスポンスが非常に良く、リアルタイムで送ってくれたため、スピード感を持って上手く進めることが出来て良かった。
- ・ リアルで実施していた時は、HPで案内を出して、会報が届くのを待って申込みの受付をしていたが、紙が届くのを待つのではなく、Webで先行して実施しても良いのではないか。
- ・ 機能としては、総会の案内と実施のレポート、愛のリレーのレポートが柱だったが、このような状態になると、レポート自体はシュリンクするので、HPの在り方を見直す時期にきた。

・ 私は 20 年この仕事に携わってきたが、新しい人に担当した貰った方が見栄えも良くフレッシュになると思われる。(雑誌で育ってきた人間で、雑誌の構成を Web に載せるイメージでスタートした。今の若い人は最初から Web としてデザインやコンテンツとして捉えられるので、これからは若い人に託したい。若い後任を探したい。)

・ これからは、ワンストップ (告知を見る⇒内容を把握する⇒申込み⇒支払う⇒OKが出る) の時代。効率も良くなる。暫くは紙との両立が続くが、それはどこかで断ち切らないといけない。コロナ禍を機に、Web 重視とし、クレカ払いも含めて、プロに任せる必要がある。

・ HP の内容については、私のマシンの切替で混乱して申し訳なかった。20 年経ち、内容が肥大化しすぎたため修正だけでは対応できなくなってきた。全く新しいものを用意して全面的に入れ替えるということをする必要があるので、その時が交代のタイミングだと考えている。

・ サーバーを松本に引っ越したが、高 48 回の丸山さんが Web 関係の仕事をしていて IT に詳しいので、(コンテンツは作れるが) 丸山さんのような方にサーバー関係の面倒を見てもらえると安心できる。

・ 紙との整合性との関係で会報あがたをどうするかも課題となる。紙を減らすことを考えないといけない。紙で欲しい人の希望を取って減らせるところは減らしていく。アーカイブ化して、いつでも好きな所を見られるようにすることが必要になってくる。

※第 52 回 (高 41 回) アンケート、会報あがたの電子メールによる配信に賛成：64%、反対：28%、何らかの形で印刷物も欲しい：8% (回答数 564)

・ 新担当に変わる時は、just in time でアップデートできるか、写真を撮ったりスケジュールを組んだりするのを誰が行うかも課題。

・ 今は、コロナ禍で動き辛く、集まる情報も少ない。入れ替えるなら今は良いタイミング。人選も含めて幹事の方に考えてもらいたい。一般用と幹事会用 (PW 付) と 2 種類あったが、幹事会用は議事録用で利用者が少ない。議事録も本来は公開すべきなので、幹事会用は廃止を提案する。

(三澤幹事長)

・ 東京同窓会で HP の話が出たのは、高 22 回の時。それ以来 20 年以上に亘って佐原さんには大変お世話になった。ありがとうございました。

・ HP の課題については、資料⑥を参照してください。

・ 現状、「縣陵東京同窓会」を検索してクリックしても HP が出て来ない。松本本部の同窓会リンクからして見られない。

・ 上田高校は年 2 回会報を発行しており、全部で 120 回分程の会報が HP に掲載されている。

・ 当同窓会でも、各委員会任せでは限界があるので、デジタル委員会などを設立して、検討していくことを提案したい。

(佐原 HP サイト管理委員長)

・ イベントは、告知・募集・結果報告で一括り。各イベントのコンテンツが集まって今の HP になっている。各種情報ページのほかに、月 1 回程度趣味のある人に記事を書いてもらうなど、同窓生に読んでもらうためのコンテンツをあやして行く必要がある。情報だけなら、ブログや LINE で足りる。コンテンツの拡がりが必要。今までの会報は、内容が余りにも縣陵に偏りすぎている。地元の景色の写真を撮っているとか、焼きものをやっているとか、そういった同窓生の動向に関するコンテンツが有っても良い。

(三澤幹事長)

・ 外注と言っても、佐原さんには総括だけをお願いするという方法もある。

(小林会計委員長)

・ 私は今まで有った請求が来なくなって気が付いた。要は、ワンクリックで東京同窓会の HP が表示できるようになれば良いのではないかな。本部のサーバーの容量は十分であれば問題ないのではないかな。

(佐原HPサイト管理委員長)

・ 縣陵東京同窓会には kenryo-tokyo.net という住所(ドメイン)がある。それを検索エンジンが探しに行く。いまはそれが本部のマンションの住所になっている。そのマンションを探していくと、その何号室に東京同窓会が有ることが分かるという感じになっている。

(二木6年委員会副委員長)

・ ワンクリックで出て来なくなったのは、ドメインが変わったから。グーグル等の検索エンジンでは、クリック数などがドメインごとに蓄積されている。ドメインが変わったことを引き継ぐ作業をしていないからだと思います。検索件数を増やしたり、リンク先を増やしたりしていくと、ワンクリックで出やすくなる。有料になる(5万円?)が、來山さんにサポートしてもらったらどうか。

(三澤幹事長)

・ 丸山さんにワンクリックで出るように出来ないかを聞いたら、ゼロから作った方が良いと言われた。私から二木さんに丸山さんとのやり取りのメールを送るので、二木さんから丸山さんに話をしてもらえないだろうか。上田高校の同窓会のHPも見てもらい、そのボリューム感も意識してもらい、良い方法が無いかフォローをお願いしたい。今後はどうするか。誰に頼むのか、一つの方法として高48回の丸山さんをお願いするのか、などお話して頂きたいが如何でしょうか。

(二木6年委員会副委員長)

・ 了解しました。

(佐原HPサイト管理委員長)

・ Webサイトは続いて行くもの。特定の一人の人が担当していると、急に亡くなったりした時に誰も引継げなくなるリスクがある。その意味では、会社に頼んだ方が引継はしやすい。多少の経費が掛かっても、個人に頼むのではなく、会社に外注した方が良いと考える。二木さん、宜しくお願い致します。

・ 質疑応答の結果、今後、100周年に向けてHPの改定を検討して行くことに決定した。

3. 100周年記念事業について

(小松副会長)

・ 本部の100周年記念事業委員会では、形を作って終わったが、今後、募金を集中的に募集してどのくらい集まるかを検討して予算を見直す予定でいる。

(太田100周年記念事業委員長)

・ 2年後に100周年を迎える。
・ 松本本部の応援ということだけでなく、東京同窓会としてどのような節目を作っていくのかを考えていきたい。

4. 各委員長からの報告・連絡等

(衣袋レディース委員長)

・ 集まらずにオンラインで出来ることが有れば11月頃に実施したいと考えているが何も決まっていない。皆さんからもアイデアが有れば提案をお願いしたい。

(脇川財政委員長)

・ 広報当資金面では順調に入金され処理が進んでいる。ワクチンは2回接種が終わった。

(仁科渉外委員長)

・ コロナ禍で全てのイベントが中止になり殆ど活動ができていない。早く皆さんと交流できるようになって欲しい。

(戸田広報委員長)

- ・ 従来より広報の電子化は課題だった。HPのリニューアルとも関連するので、積極的に関わり良い方向に持っていきたい。

(河野6年委員会副委員長)

- ・ 具体的なことはまだ決まっていないが、松澤委員長と相談して決める予定。

(小林会計委員長)

- ・ 濱田実行委員長から決算報告を頂いた。用語の使い方を含めて中身の確認をしていきたい。

(有賀総会指導副委員長)

- ・ 私もワクチン接種が終わった。皆さんがお元気そうで良かったです。これからも宜しくお願い致します。

(松澤事務局次長)

- ・ 7月に熊谷から高崎に異動になった。新幹線通勤できるので通勤時間は短くなった。佐藤さんから引継の話を頂いた。63歳まで定年が延長になったが、出来るだけ協力していきたいので、これから宜しくお願い致します。

(佐藤事務局次長)

- ・ 松澤さんには早く定年となって一緒に仕事をしたいと考えている。
- ・ 今回の実行委員会のメンバーは、全員が東京同窓会の名簿への登録が出来ていないので、登録をお願いしたい。

5. 佐藤会長のご挨拶

- ・ 今日1日ご苦労さまでした。
- ・ 同窓会の中身の改定・簡素化・HPの問題、いずれもこれからの東京同窓会の有り方や先行きを左右する大事なテーマだった。なかなかWebでは話しづらい点もありますが、コミュニケーションを取りながら進めて行きたいと思います。
- ・ 同窓会は懇親の場、旧友との再会の場として期待されている。引き続きしっかりやって行きたいと思います。今日は1日大変お疲れさまでした。有難うございます。

6. その他

- ① 次回の合同幹事会は、9月25日(土)の予定

以上